

季節性インフルエンザと予防接種

1 病気の説明

季節性インフルエンザは急性呼吸器感染症で、発熱、悪寒、頭痛、筋肉痛などの全身症状が突然あらわれます。潜伏期間は 24～72 時間です。呼吸器症状は遅れて現れることが多く、鼻づまり、咽頭痛、せきなどです。合併症がなければ 2～7 日で治ります。合併症は、特に小児では中耳炎、熱性けいれん、気管支喘息の誘発、まれに急性脳症を併発した場合は重症となります。

2 インフルエンザワクチン

季節性インフルエンザワクチンに含まれるウイルス株は季節性インフルエンザの流行状況やウイルスの状況を参考にして毎年決定されています。

インフルエンザ HA ワクチンの製造過程で発育鶏卵が使用されますが、鶏卵成分は精製段階で除去されています。しかし、卵アレルギーが明確な人に対しての接種には注意が必要です。鶏卵、鶏肉にアナフィラキシーがあった人で、接種を希望される場合には専門施設におたずねください。

3 接種回数・接種量

インフルエンザ HA ワクチンは生後 6 か月以上 3 歳未満は 0.25 ml。3 歳以上 13 歳未満は 0.5 ml をおよそ 2～4 週間の間隔をおいて 2 回接種します。

経鼻弱毒生インフルエンザワクチンは 0.2 ml を 1 回（各鼻腔に 0.1 ml ずつ）鼻腔内に噴霧（スプレー）します。

4 インフルエンザ予防接種の有効性

報告によって多少幅がありますが、おおむね 20～60% の発病防止効果があつたと報告されています。また、重症化予防に関する有効性を示唆する報告も散見されます。

5 副反応

インフルエンザ HA ワクチンの場合は、注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。経鼻弱毒生インフルエンザワクチンの場合は、半数以上の方に鼻水、10% 以上の人に鼻づまり、咳、口やのどの痛みなどがみられます。

どちらのワクチンも共通して発熱、頭痛、全身のだるさなどがみられることがあります。まれにショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管のむくみ等）があらわれることがあり、そのほとんどは接種後 30 分以内に起こりますが、まれに接種後 4 時間以内（アナフィラキシーの副反応報告基準）に起こることもあります。

6 対象者

小児のインフルエンザ予防接種は任意接種です。予防接種の効果及び副反応についてご理解いただき、接種を判断してください。

7 予防接種を受けることができない人

予防接種は体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談のうえ、接種するか否か決めて下さい。また、以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ① 明らかに発熱(通常 37.5℃以上)がある人
- ② 重い急性疾患にかかっていることが明らかな人
- ③ インフルエンザ予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある人
- ④ 経鼻弱毒生インフルエンザワクチンにおいては、明らかに免疫機能に異常のある疾患がある人、免疫を抑制する治療を受けている人
- ⑤ その他、医師が予防接種を受けることが不適当な状態と判断した人

8 予防接種を受けるに際し、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- ② 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた人、全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった人
- ③ 過去にけいれんのあった人
- ④ 過去に免疫不全の診断がされている人、近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ⑤ 間質性肺炎、気管支喘息等の呼吸器系疾患がある人
- ⑥ 接種液の成分にアレルギーをおこすおそれのある人

9 接種後の注意

- ① 予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります、様子を観察し、医師とすぐに連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種部位は清潔に保ちましょう。接種当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- ③ 接種当日はいつも通りの生活をしていただいてかまいません。ただし、激しい運動は避けましょう。

10 副反応がおこった場合

接種による健康被害が生じたときは、医薬品副作用被害救済制度の範囲における補償の対象となります。